

メールマガジン 埼玉県議会



発行：埼玉県議会



No.215 2017.6.30

県議会広報テレビ「こんにちは県議会です」
6月25日(日曜日)放送分「副議長・議会運営委員長インタビュー」

県議会広報テレビ「こんにちは県議会です」では、各定例会の様や各委員会委員長のインタビューなど県議会に関するさまざまな情報を放送しています。

今号のメルマガでは、ご覧になれなかった方のために、25日に放送した「副議長・議会運営委員長インタビュー」の内容をお伝えします。

【放送時間】テレビ埼玉 日曜日 朝10時～



☆詳しい放送スケジュールは、[こちら](#)。

プレゼントコーナーもありますので、ぜひご覧ください！

INDEX



県議会広報

こんにちは県議会です「副議長・議会運営委員長インタビュー」



議事堂の花

生け花のご紹介



県議会広報

【こんにちは県議会です】「副議長・議会運営委員長インタビュー」

埼玉県議会副議長に就任された土屋恵一副議長と諸井真英議会運営委員長に、就任に当たっての抱負や決意などを伺いました。

●副議長インタビュー

〈土屋恵一副議長〉

昭和29年生まれ(62歳)

埼玉県議会自由民主党議員団

西第5区 ふじみ野市・三芳町選出

平成19年 県議会議員初当選(現在3期目)

これまで、総務県民生活委員長、少子・高齢福祉社会対策特別委員長、決算特別委員長などの要職を歴任し、今年3月に埼玉県議会副議長に就任

《副議長としての抱負》

— はじめに番組をご覧の皆さんにごあいさつをお願いします。—

副議長 皆さま、こんにちは。このたび副議長という大役を務めさせていただくことになりました土屋恵一です。大変光栄でありますとともに、その重責に身の引き締まる思いでございます。

車の両輪である県執行部と議会が切磋琢磨しながら意見を出し合い、より良い埼玉県になるよう頑張っております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。



《政治家を志したきっかけ》

— 政治家を志したきっかけをお聞かせください。—

副議長 私の父は、旧大井村の時から村議会議員と町議会議員を務めていました。

私は、昭和52年に旧大井町の職員として役場に入りました。政治家としての父の背中を見ていましたが、私は公務員として仕事をしていたので、最初は政治家を目指すつもりはありませんでした。

— 職員として行政に携わられていたのですね。—

副議長 私が役場に入った頃は、東京のベッドタウンとして宅地が開発され、町の人口が急増していました。最初の配属先は教育委員会で、財務関係の仕事をしていました。新しい学校がどんどん建ちはじめていましたね。

— 町の過渡期だったのですね。—

副議長 はい。その後、私がたまたま議会事務局の係長だった時に、町議会議員だった父の後継者の方が体調を崩してしまい、地元の皆さまから「地域のために引き継いでほしい」と薦められたのがきっかけです。

町議会議員に立候補して当選させていただきました。旧大井町は、平成17年に上福岡市と合併してふじみ野市になりましたが、市議会議員としても1年ほど務めました。

— その後、県議会議員になられたのですね。—

副議長 地域や県をより良くしたいという思いで、平成19年の県議会議員選挙に立候補して初当選し、今期で3期目になります。皆さまのご支援をいただき、深く感謝しております。

— 町議会・県議会議員としての経験と行政職員としての経験、両方の目線をお持ちなのですね。—

副議長 職員も議員も地域のための仕事ですが、市町村の議員と県の議員の活動はまた違います。

市町村は県よりも住民に近い存在ですが、県道整備や信号機の設置など市町村にはできないことがあります。県民の皆さまの一番近くにいるわれわれ議員が地域の皆さまのご要望やニーズを把握し、県と市町村のパイプ役として、「美しく豊かで幸せな彩の国」、「安心、安全な生活の実現」を目指していきたいと思っています。

《今までの議員活動で印象的な出来事》

— 副議長はこれまでさまざまなお仕事に取り組んでこられたと思います。その中でも特に印象に残っていることはなんですか。—

副議長 そうですね。町議会議員時代のことになるのですが、旧上福岡市と大井町の合併が印象に残っています。平成17年10月1日に合併が成立しましたが、合併するまでには、協議会で話し合いを重ね、さまざまな調整をしたりと、大変貴重な経験をすることができました。

多くの皆さまの御協力をいただきまして、この経験は今後の県議会運営にも生かしていけると思っています。

— これからの議会活動に係る思いについてはいかがですか。—

副議長 はい。圏央道が県内全線開通しましたので、交通の利便性の向上と人の流れを呼び込むチャンスです。また、今後、関越道の三芳スマートインターチェンジのフルインター化が地域経済の活性化につながっていくと思います。

さらに、2020年には東京オリンピック、その前年には熊谷ラグビー場でラグビーワールドカップが開催され、国内外から多くの観光客が埼玉県を訪れます。

美しく豊かで安心の埼玉県から、元気を発信して盛り上げていきたいですね。

《趣味について》

— ここからはプライベートについても伺ってまいります。趣味という、どのようなことが挙げられますか。—

副議長 はい。中学校では野球部に入っていました。高校では地元の柔道の道場に通って初段を取りました。野球は、役場に入ってから社会人野球を続けていました。スキーやゴルフもします。



— 身体を動かすことがお・Dきなのですね。—

副議長 子供の頃の遊びと言えば、野球でしたね。学校から帰ると勉強よりも真っ先に野球で、他にもビー玉、ベーゴマとかお金を掛けずにみんなで楽しめる遊びがありましたね。



— 今も身体を動かすことはありますか。—

副議長 最近は忙しくて体を動かすことがなかなかできませんが、健康維持のためにウォーキングの時間をつくるようにしています。

1回1万歩歩くようにしていますが、時間になると1時間20分くらいかかりますから、歩ける時間がある時は前もってその時間を確保しておきます。

— 1万歩ですか。健康に気を付けていらっしゃるのですね。—

副議長 はい。体調管理も大切な仕事の一つだと思います。

《大切にしていること》

— 次です。大切にしていること、座右の銘は何かありますか。—

副議長 そうですね。「人の心を動かすのは政策ではなく、信頼関係である」という言葉を大切にしています。人と人とは信頼関係が大事です。どんなに素晴らしい政策を掲げても、まずは思いやりや誠意を持ち、信頼関係を築くことが大事だと思います。

《今後の抱負》

— 最後に、今後の議会運営について、お考えをお聞かせください。—

副議長 はい。二元代表制の一翼を担う私たち県議会が、執行部のチェック機関としてのみならず、積極的かつ能動的な議会として責任を果たしていくことが大変重要であると考えます。

円滑な議会運営に取り組み、県民の皆さまが夢と希望を持ち、安心して生活することができるよう、小林議長の下、誠心誠意努力してまいります。

●議会運営委員長インタビュー

— はじめに自己紹介と、ごあいさつをお願いいたします。—

委員長 このたび、委員長を務めさせていただくことになりました東第2区 羽生市選出の諸井真英でございます。

公正で円滑な議会運営に取り組んでまいりたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。



— まず、議会運営委員会の役割については、どのようにお考えですか。—

委員長 県議会は、県の条例や予算など県民の皆さまの生活に直接関係する数多くの議案を審議・議決しております。

議会運営委員会は、県議会を円滑かつ効率的に進行するため、重要な事項を協議し、意見調整を図る場として設置された委員会です。

— 議会を円滑に進行するための調整役ということですね。—

委員長 はい。より活発に議論が行われるとともに、円滑に本会議を進めることが必要ですので、大変重要な役割を担っていると考えております。

— 今月19日から6月定例会が始まりましたが、議会運営委員会はいつ開かれたのでしょうか。—

委員長 まずは開会前の6月12日に開かれました。開会後も本会議の前などに委員全員が集まって何回か話し合いを行います。

— 定例会中も開かれるのですね。—

委員長 はい。県議会議員の定数は93人です。限られた時間内で、これだけの人数が活発に議論するためには、事前の連絡や調整が不可欠です。

必要に応じて、委員会を開き、調整を行います。



— どのような調整をされていたのですか。—

委員長 まずは、6月定例会の日程や質疑質問者の会派ごとの割り振りなどについて協議を行ったところです。

定例会中は、ほかにも各会派の意向や考えも踏まえ、意見書の取扱いや採決の方法など、決定することが数多くあります。

— 多くの事柄を協議されるのですね。—

委員長 知事や議員から提出された条例や議案、県民の皆さまから提案された請願などをどの委員会に付託して審査すべきかということについても、協議を行います。

— 最後に委員長としての抱負と決意をお聞かせください。—

委員長 はい。県議会は、県民の代表として、皆さまの声を県政に反映させるという大きな使命を担っています。そのため、県議会には活発な議論を通じて、積極的な政策立案を行い、県民の負託に応えるということが求められています。

私は議会運営の調整役として、円滑で効率的な議会運営が行われるよう委員の皆さまの御協力をいただきながら、委員長としての責務をしっかりと果たしてまいります。

[▲トップへ](#)



議事堂の花

このコーナーでは、議事堂ホールに飾られた生け花をご紹介します。
【協力 埼玉県いけばな連合会】



展示期間：
6月19日
～6月23日
作者：
古流華栄会
橋本理洋様
花材：
雲竜柳、クジャ
クヒバ、菊

◇◆生け花の作者の方に聞きました！◆◇



〈古流華栄会 橋本理洋様〉

Q:とても落ち着いた作品ですね。

A:伝統的な生け花の流派である古流の様式です。花材はもちろん、花

器や生け方も古典的に仕上げました。家紋の入った六角形の寸胴の花器は、「三つ寄せ」といって、異なる高さの花器をバランスよく組み合わせました。

Q: すっきりした中にも凛とした美しさがありますね。

A: 雲竜柳の枝は細いですが、天まで伸びていくような勢いがあります。ヒバは美しく横に流しました。それぞれが三角形になるように生け、なおかつ作品全体でも三角形を描くことによりバランスが取れ、広がりを感じつつもすっきりとまとまります。

[☆現在展示中の作品や過去の展示作品は、県議会ホームページでご覧になれます。≫](#)

[▲トップへ](#)

【お問い合わせ】

●[「メールマガジン埼玉県議会」の登録・解除はこちらから≫](#)

※登録事項(メールアドレスなど)を変更する場合には、お手数ですが、変更前のメールアドレスを一度解除してから新規に登録してください。

●「メールマガジン埼玉県議会」についてのお問い合わせ・感想はこちらまで！

E-mail a6250-03@pref.saitama.lg.jp

埼玉県議会事務局政策調査課

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1 電話 048-830-6257/FAX 048-830-4923

Copyright 2008. Saitama Prefectural Assembly 無断転載を禁じます。

